

水稲新品種「ナツヒカリ」について

岩下友記・山川恵久・町田道正・土井 修・新屋 明・宝満正治・森谷国男
(鹿児島県農業試験場)

Tomoki IWASHITA, Yoshihisa YAMAKAWA, Michimasa MACHIDA, Osamu DOI, Akira SHINYA, Masaharu HOUMAN and Kunio MORIYA: A New Rice Cultivar "Natsuhikari"

水稲新品種「ナツヒカリ」は、1983年に高知県、1984年には鹿児島県でそれぞれ奨励品種に採用され、水稲農林272号として登録された。ここに本品種の来歴、育成経過ならびに特性の概要を報告し普及上の参考に供したい。なお本品種の育成には、国、県関係農業試験研究機関の担当官に多くの御協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

1. 来歴および育成経過

本品種は、「コシヒカリ」の早生、短強稈、いもち耐病性強を目標に、1972年鹿児島県農業試験場において「か系639」を母、「西南45号」を父として人工交配し、1973年F₁養成その後は、F₂で雑種集団栽培、F₃を個体選抜、F₄以降は系統育種法によって選抜固定を進め、1980年(F₈)より西南69号の系統名で関係府県に配布し、地方的適否を確かめた結果、高知・鹿児島両県で良好と認められ通称名を「ナツヒカリ」と命名された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 苗丈は「越路早生」よりもやや短く、葉色はやや濃い。成熟期の稈長は「越路早生」、「コシヒカリ」より10cm程度に短い。穂長は同程度かやや短く穂数は多い短稈穂数型の稈種である。熟色はよく穂の粒着密度はやや疎、ふ先色は黄白で無芒、脱粒性は難である。玄米はやや大粒で光沢に富み、腹白、心白、乳白は極めて少なく外観品質は良好で搗精歩合も高い。食味は「コシヒカリ」並に良い。

2) 生態的特性 出穂期、成熟期ともに鹿児島では「越路早生」より4日～5日早く、「コシヒカリ」より6日～7日早い極早生種である。稈の太さは中程度であるが、倒伏には強い。いもち病の真性抵抗性は、Pi-z, Pi-iによって支配されていると推定され、葉いもち、穂いもち、ともに「カツラワセ」と同程度の圃場抵抗性を持つと思われる。白葉枯耐病性は、I, II群菌ともに中程度、耐冷性はやや弱、穂発芽性はやや難から中程度である。耐倒伏性は強で、収量性は多肥条件下で栽培すると、「越路早生」、「コシヒカリ」と同等か多収である。

3. 適地および奨励品種採用県

極早生、倒伏性強、良質良食味品種として西南暖地域の早期栽培地帯が適地と考えられる。採用県の高知は中

央高知平野と西部海岸地域の「カツラワセ」、「フジヒカリ」の全部とその他品種を対象に、また鹿児島県では、熊毛地域の「越路早生」全部とその他品種に替って普及するものと思われる。

第1表 ナツヒカリの一般特性(鹿児島県農業試験場)

品種名	(標)	(比)	(比)		
形質	ナツヒカリ	越路早生	コシヒカリ	カツラワセ	
早晩性	極早生	早生の早	早生の早	極早生	
草型	短程・穂数	長程・穂数	長程・穂数	短程・穂数	
稈長(cm)	81	92	92	82	
穂長(cm)	18.1	18.2	18.1	17.9	
穂数(本/m ²)	522	487	469	489	
芒の多少,長短	無	稀短	稀短	無	
ふ先色	黄白	褐	黄白	黄白	
脱粒性	難	難	難	難	
耐倒伏性	強	やや弱	弱	強	
耐冷性	やや弱	弱	中	弱	
穂発芽性	やや難	やや易	難	難	
耐病性	葉いもち病 白葉枯病 イネかい化病	中(Pi-z, Pi-i) やや強～中 やや強	やや弱 やや弱～弱 —	弱 中～やや弱 やや強	中(Pi-z, Pi-ia) やや弱 —
玄米重(kg/a)	50.9	48.1	47.8	51.1	
玄米千粒重(g)	21.2	20.2	20.4	21.7	
玄米品質	上 中	上 下	上 下	上下～中上	
食味	上 中	上 中	上 中	中 中	
調査場所・年次	鹿児島農試：1979年～1982年の4ヵ年平均				

4. 栽培上の注意

地力の低い水田や施肥量が少い場合は、低収となるので、適切な肥培管理が必要である。また極端な早植や標高の高い地帯では、冷害のおそれがあるので栽培を控えること、いちも耐病性については真性抵抗性Pi-z, Pi-iをもち、この遺伝子を侵す菌系が発生しない段階では発病しないが、常に発病には十分注意し発生をみたら早期防除に努める。また品質は良質であるが極早生種であるので、適期刈取りを行う。

5. 命名の由来

真夏にいち早く新米の良質米が収穫出来ることを表す。(夏光)